

平成 30 年度第 3 回富山県公立大学法人評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成 31 年 2 月 12 日 (火) 13:00~14:20

2 会 場 富山県庁 4 階大会議室

3 出席委員

[五十音順、敬称略]

氏 名	役 職 等	備 考
梅田 ひろ美	富山県商工会議所女性会連合会 前会長 (株)ユニゾーン 代表取締役会長	
谷川 正人	(一社)富山県機電工業会 会長 コーセル(株) 代表取締役社長	
林 幸秀	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー	委員長に選任
堀 仁志	堀税理士法人 代表社員 公認会計士	

4 議 事

協議事項

公立大学法人富山県立大学中期目標及び中期計画の変更 (案) について

5 会議の概要

- ・司会が開会を宣し、総合政策局長より開会の挨拶
- ・委員の互選により林委員を委員長に選任
- ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。

協議事項 公立大学法人富山県立大学中期目標及び中期計画の変更 (案) について

<事務局・法人説明>

資料及び参考資料に基づき、看護学部開設の経緯、看護学部の概要、中期目標の変更 (案) について説明

(委員長)

- ・看護学部について事務局から説明があったが、特にこれだという目標があるか。他の大学との違いはあるのか。

<法人>

- ・新設のため、新しいカリキュラムを構築できるという特徴がある。例えば、認知症などに効果的なフランス発祥の新しい看護ケア技術であるユマニチュードを授業に取り入れる予定である。

- ・若者のコミュニケーション能力不足が問題となっているので、コミュニケーション能力の育成にも力を入れる。
- ・工学部が併設されているので、看工連携も特色の一つとなる。
- ・勘やコツといったものだけではなく、エビデンスに基づく看護技術を身に付けさせる。
- ・決められた技術だけでは間に合わない時代になっているので、自ら情報を取得して、自ら技術の実践に活かせる学生を育てたいと考えている。

(委員)

- ・看護と工学の融合とは具体的にはどういうことか。

<法人>

- ・看工連携科目は3つあるが、例えば「看護ケアと工学」では、高齢者が一人住まいで、見守りのマンパワーが不足するのでロボットを入れる場合、単なる工学的な視点のロボットではなく、見守りの対象者の体と心の視点にも配慮したロボットが必要になるとか、「生活支援と情報」では、コンピュータ科学を取り入れるがそこは工学の先生に担ってもらうこと等を考えている。
- ・「先端医療論」では、医師等が使用する画像診断装置などの検査装置について、その基盤には工学的な技術が使われているが、そのような装置の仕組み等を理解して、患者さんにわかりやすく説明できるような看護師を育てたい。

(委員長)

- ・県立大学の場合、県内定着率が非常に大事であるが、看護学部ができることでどうなるのか。また、現状はどうなのか。

<事務局>

- ・看護学部の場合、推薦入試はすでに終わっていて、入学定員に対して4割、48人が推薦入試の枠で、全員が県内の高校生である。
- ・残りの6割が今からの一般入試になるが、県外の高校生との競争となる。
- ・出口部分については、県内の公的病院24病院すべてが実習の受け入れ先として予定しており、県内外出身を問わず、卒業する学生には県内に定着してもらいたいと思っている。
- ・現在、県が運営している看護師養成学校である総合衛生学院の入学定員は100名であるが、そのうち15名程度が進学で、残りのうち約8割(70人程度まで)は県内に就職している。

(委員)

- ・自分も入院して分かったが、患者にとって一番頼りになる、心の支えになるのは看護師であり、看護学部の開設は大賛成である。

- ・心配な面は、優秀な学生が県内から県外に出ていったり、県外の優秀な学生がやってきて、県外に帰ってしまうことであるが、地域、周りの環境が良くなれば、県立大の学生の男女のバランスがうまくとれれば、定着率も良くなるのではないか。
- ・周りとのコミュニケーション能力は非常に大切であるので、学生時代に育成しておくことは良いことである。

(委員)

- ・就職してからも学ぶことが多いと思うが、若い人たちは自分から学ぼうとする意欲が少ないというか、なんでも与えられることに慣れてしまっているのではないか。そういう意味では、「自ら学ぶ力」を身につけるという観点でカリキュラムが作られているのは良いと思う。
- ・最近インターネットで何でも調べられる時代で表面的な学習はできるが、もう一歩突っ込んで調べる力が足りていないと思うので、「なぜ、どうして」を突き詰めていくことの大切さを学んでほしい。
- ・日本企業の良さの一つとして、チームで成し遂げていくということがあると思うが、看護の分野も同様で、一人でできるわけではなく、病院の中でもチームとして連携してやっていかなければならないことが多いと思うので、そういう中でリーダーシップという要素が重要になってくるのではないか。
- ・仕事は複雑になっており、すべてを理解している人はまずいない。上手に連携をとって仕事を進めていくためには、一人一人がリーダーシップをとっていく場面があると思う。

<法人説明>

資料及び参考資料に基づき、中期計画の変更（案）について説明

(委員)

- ・県立大学看護学部の特徴として、カリキュラムを看護師育成に特化しているということだが、この点は明記しなくても良いのか。

<事務局>

- ・カリキュラムについて明記するとしたら中期計画になると考えられるが、今の（案）では明確になっていないので、資料2-2の4ページにある教育内容の充実の教育課程の体系化のあたりに記載を追加できればと思う。

(委員長)

- ・それでは、中期計画にその旨記載することとして、文案については、私の方で最終的に確認するので一任させていただきたい。

(委員長)

- ・卒業生の県内定着率の数値目標は今回変更・記載しないのか。

<法人>

- ・看護学部も工学部同様、県内に優秀な人材を供給することは県立大学として重要な課題であり、成果を出していかなければならないが、今の中期計画は6年間で残り2年となっているため、県内定着の数値目標については、次の中期計画で明記したいと考えている。

(委員長)

- ・他に特になければ、今回示された中期目標（案）及び中期計画（案）については、評価委員会として、了承することとしたいが、中期計画については、一部加筆することで文案については、私に一任いただきたい。
- ・その他について、事務局から説明を願う。

<事務局>

- ・本日ご意見を伺った中期目標については、この2月議会に提案し、議決後、県から法人へ指示することになる。
- ・中期計画については、法人から県への申請後、認可の手続きを進めることになる。

(委員長)

- ・本日の議事はこれにて終了とします。ありがとうございました。 (閉会)